

電事連会長 定例会見要旨

(2022年9月16日)

電事連会長の池辺です。よろしくお願いたします。

本日、私からは、「電力需給状況とGX実行会議で示された検討項目」「原燃審査支援を一層強化する『サイクル推進タスクフォース』の設置」について申し上げます。

<電力需給状況とGX実行会議で示された検討項目について>

まず、電力需給状況については、6月末は東京エリアで連日、電力需給ひっ迫注意報が発令され、大変ご心配をおかけいたしました。7月以降、補修点検の終了による供給力の増加や、広く社会の皆さまの節電へのご協力もあり、今のところ、安定供給を確保することができております。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

この冬については、原子力の再稼働や供給力公募による休止火力の稼働等により供給力を確保してきておりますが、ウクライナ情勢の影響により、ロシアからの燃料調達途絶えるような事態に備えておくことも必要であり、予断を許さない状況に変わりありません。我々としては、需給両面であらゆる対策を講じる必要があると考えており、火力発電の燃料の安定的な確保や設備のメンテナンスなど、供給面での対策に最大限取り組むとともに、需要面においても、節電の呼びかけ、デマンドレスポンスの普及拡大などに努めてまいりますので、引き続き、電気の効率的な使用へのご協力をお願いいたします。

こうした足元の対応と並行して、需給ひっ迫の解消に向けて、中長期的な対策も必要です。電力自由化が進む中であっても、既設発電所の維持・活用や新規電源投資の拡大を促し、魅力的な発電事業を実現する具体的な仕組みの検討が非常に重要であり、既設電源の維持や、新規電源の建設に係る投資回収の予見性を高めるような事業環境整備が必要です。

安定供給を確保したうえで、2050年カーボンニュートラルを実現するためには、このような仕組みを整備し、再エネはもとより、原子力や環境性に配慮した火力を適切に稼働させる必要があります。原子力については、再稼働を果たしたプラントの安定運転の継続に努めてまいります。10基に留まっている再稼働プラントを増やすための工事や手続き、原子力規制委員会の審査への迅速な対応も重要です。私どもは「再稼働加速タスクフォース」を設置し、審査課題の情報共有と業界大の機動的支援の継続、これから再稼働を目指す事業者への人材育成も兼ねた人的支援、審査上の知見の蓄積・継承に積極的に取り組んでおります。

なかでも新規制基準の審査については、内容を充実させつつ、手続きを効率的に進めることができるよう、規制委員会とのコミュニケーションをしっかりとることが大切だと考えております。本年4月から、審査が継続している電力会社の経営層が順次、規制委員会メンバーと意見交換を行っており、規制委員会より、現時点での整理が9月7日に示されました。意見交換の場で、事業者からは、透明性を確保した文書通知や、規制庁職員との公開会合の開催等により、審査の早い段階で論点を提示いただくことや、規制側と申請者が審査の進め方について定期的に議論し共有すること、基準地震動等の審査に並行してプラント審査を実施していただくこと、同一サイトの複数プラントを並行して審査いただくこと等、審査の効率化についての要望をお伝えしました。規制委員会からは、より機動的に審査会合を開催することや、基本的には複数プラントを並行して審査することは可能である、などのご発言をいただいております。引き続き、新規制基準に的確に対応するとともに、効率的な審査に向けて原子力規制委員会とも丁寧なコミュニケーションをとってまいります。

8月24日に開催された政府の第2回GX実行会議において、日本のエネルギーの安定供給の再構築に必要となる方策等が議論されました。その中で、世界や日本のエネルギーを取り巻く状況を俯瞰し、日本のエネルギーの安定供給とカーボンニュートラルの実現に向け、政治的決断の下で、あらゆる施策を総動員する方策について、検討の方向性が示されております。具体的には、再生可能エネ

ルギーの拡大、原子力発電の最大限の活用、電力システムの再点検、さらには、資源確保におけるサプライチェーン全体の強靱化など、今後の議論に向けて、様々な視点から重要な論点が示されているものと認識しております。私どもは、エネルギー政策は、国民生活や経済活動の基盤を支える国の根幹をなすものであり、これまでもずっと申し上げてきたように、安全性の確保を大前提に、エネルギーの安定供給、経済効率性、環境への適合の同時達成を目指す「S+3E」の重要性に変わりはないと考えております。

原子力についても、運転期間延長、次世代革新炉の開発・建設などの検討事項が示されました。私どもも最大の使命である電力の安定供給という使命を果たしていくために、足元の早期再稼働も含め、中長期的に原子力発電が社会に貢献し続けることができるよう、緊張感を持って取り組んでまいります。

本件について、今後、国において検討が進められていくことは大変重要であると認識しており、私どもも、電力業界の総力を挙げて、安定供給確保とカーボンニュートラルの実現の両立に向けて、国や自治体、国民の皆さまと知恵を絞りながら、しっかり取り組んでまいります。

＜原燃審査支援を一層強化する「サイクル推進タスクフォース」の設置について＞

日本原燃再処理工場については、原子燃料サイクルのかなめとして、原燃が規制委員会による審査対応と、しゅん工に向けた工事を鋭意進めておりますが、今月7日に原燃が公表した通り、2022年度上期としていたしゅん工時期を見直すこととなりました。お示ししていたしゅん工時期の変更により、ご心配をおかけすることとなり、原子力事業者としても、地元の皆さま、社会の皆さまに申し訳なく感じているところです。工事については、認可後に実施するもの以外は、今月末に約95%を終え、年内には完了する予定であり、一定程度のめどはついております。設工認審査については、すでに第1回の補正を行っており、今後、審査論点の整理を行いつつ、認可に向けて段取りを検討しているところです。

再処理工場しゅん工に向けた取り組みを加速させるため、電事連では、「サイクル推進タスクフォース」を設置いたしました。すでに電力各社から原燃に、審査経験が豊富な役員・管理職を送り込み、主要ポストに配置し、原燃の設工認対応者をバックアップしておりますが、今後は審査対応の技術面だけでなく、マネジメント面に関する課題も吸い上げ、解決策を検討し、確実にフィードバックする体制といたします。原燃の関係者はもちろん、電力からの駐在者も審査上の課題を日々共有し、その解決策を検討した上で、その後の工程に確実に生かしていくことにより、設工認の審査にめどをつけ、年内に今後の工程が告示できるよう、最大限バックアップをしてまいりたいと考えております。

資源に乏しい我が国のエネルギー事情を考えると、原子力発電は今後とも重要なベースロード電源として活用していく必要があります。原子燃料サイクルは、ウラン資源の有効活用、廃棄物の減容・有害度低減等の観点から極めて重要であると考えており、GX 実行会議でも、再処理・廃炉・最終処分といったバックエンドを進めるための国の積極的な関与のあり方などについて検討を行うとされました。

日本原燃においては、原子燃料サイクルの中核となる六ヶ所再処理工場のしゅん工に向けて、引き続き、設工認に関わる審査や安全対策工事に全力で取り組んでいただくとともに、私ども原子力事業者としても、今後も日本原燃をオールジャパン体制で支援してまいります。

<最後に>

最後に、今月の話題といたしまして、電気事業連合会のテレビ CM を全面リニューアルし、全国で放映を開始しておりますので、少しご紹介させていただきます。今回の新しい CM では、女優の今田美桜さんにご出演いただいて、「もっと、電気も脱炭素」というメッセージの「環境編」と、「今こそ、エネルギーミックス」というメッセージの「安定確保編」の 2 本をリリースしております。ぜひ多くの皆さまに、環境や日本のエネルギーについて考えていただくきっかけになればと考えております。テレビ CM の他にも、Web 限定で、今田さんが節

電を呼び掛ける動画や、若年層向けのスペシャルムービーもご用意しております。電事連ホームページトップに特設ページがありますので、みなさまも是非ご覧いただくとともに、広くご紹介いただければと思います。

本日、私からは以上です。

以 上